

## 東日本大震災後の生活者1000人の意識・行動調査 広がる“低燃費生活”志向

～電気ばかりでなくガソリンなどエネルギー全般の節約志向が顕著～

～モノを選ぶ基準も「必要最低限な機能」で「コンパクト」であればよい。“エシカル\*”な志向も～

ノルド社会環境研究所(本社:東京都中央区、代表取締役:久米谷弘光)は、東日本大震災後約4ヶ月が経過した今、生活者の意識・行動がどのように変化したのかを把握するため、全国の20歳から69歳の男女個人1,000人(有効回収)を対象としたWebアンケート調査を実施しました。

その結果、多くの生活者が震災によって価値観・行動の変化を経験し、節電にかぎらず、広く省エネ・節約志向が強まり、本当に必要とする効用をより少ないエネルギーや費用で得ようとする「低燃費生活」志向が広がっていることが明らかになりました。

暮らしの中の無駄を見直す傾向の中、低価格でコンパクト、必要最低限の機能のついた商品・サービスが志向され、LED照明、省エネ家電、低燃費車などへのニーズが高まっています。また、家族や周囲とのきずなも重視されていることから、社会貢献型の商品への関心も高まっています。

主な調査結果は下記の通りです(詳細は次頁以降参照)。

\*エシカル ……環境や社会に配慮した工程・流通で製造された商品を選択し、そうでないものを選択しない」という消費活動

### 震災後のライフスタイルとして「低燃費生活」志向が広がる。

- 震災によって、価値観や行動に変化の「あった」人が61.9%。
- 震災後のライフスタイルは、生活の無駄を見直し、省エネを実施し、家族や周囲の人との関係を重視したものに。特に省エネ志向は顕著で、5割近くの人が震災で新たに暮らしの省エネを考えるように。

### 節電に限らず節ガス、節ガソリン志向も顕著。

- 震災後支出を減らしたものの、「電気代」がトップだが「電気以外の光熱費」「ガソリン代」も3位、4位。
- 震災から現在まで節電し続けている人70.5%、ガスの節約は36.2%、ガソリンの節約は39.0%

### 低燃費生活のため、「低燃費車」など商品購入意向も高い。

- ガソリン節約策として今後「低燃費車」に注目が集まるなど、低燃費生活のための商品購入意向は高い。
- 「次に購入する車を低燃費車にしたい」人が何と9割(88.0%)。

### 震災後のモノ選び、「必要最低限の機能」で「コンパクト」。エシカル志向も。

- 震災後4ヶ月後のモノ選びの条件は、「手軽な価格」(89.2%)で「長持ちし」(88.5%)、「安全性が高く」(87.8%)、「必要最低限の機能」(83.8%)であること。震災後、特に新たに高まったのは、社会貢献志向。
- また、「コンパクト」(95.8%)で、「基本性能のみ」ついた(76.1%)、「必要なものだけ」(88.1%)選びたい。エコは「不可欠」(65.6%)。

# 調査結果概要

News Release from NORD 2011.7.21

## ■本調査の概要

調査対象： 全国の20代～60代の男女個人(インターネットユーザー)  
調査方法： Webアンケート  
サンプル抽出法：生活者モニターからの無作為抽出(性・年齢別に均等割付)  
有効回収集計対象サンプル数：1,000サンプル  
調査期間： 2011年7月1日～2011年7月5日

株式会社ノルド社会環境研究所

“ピープルズシンクタンク”を理念とする独立系の民間調査研究機関。社会環境政策、地域計画、マーケティング、CSR、広報・コミュニケーション分野の調査研究及びコンサルティングを行っている。

## ■調査結果概要

震災後価値観や行動が「変わった」人は61.9%。うち2割強(21.9%)が現在も変わったままです。現在ライフスタイルとして重視されているのは「生活の無駄を見直す」(87.9%)、「エネルギーの節約を積極的にする」(86.7%)、「家族や周囲の人との関係を大切にする」(84.1%)など。特に「エネルギーの節約を積極的にする」は、震災後初めて重視し始めた人が多く、「震災後そう思うようになった」人が約半数(48.7%)を占めています。

実際、震災後支出を減らしたのものとしても、1位「電気代」(42.8%)、3位「ガス代、水道代など電気代以外の光熱費」(26.1%)、4位「車のガソリン代」(25.4%)と、エネルギーへの消費が主にあげられ、**生活の無駄を見直す中、モノの消費以上にエネルギーの消費を減らす、“低燃費”な生活志向が顕著**となっています。

“低燃費生活”の実態を具体的に見てみると、震災後節電を行ったという人は87.7%、ガスの節約を行った人は46.5%、ガソリンの節約を行った人は59.9%。うち、今も継続しているという人は、節電(70.5%)、ガス(36.2%)、ガソリン(39.0%)となりました。

これらエネルギーの節約対策として現在行っているのは、電気1位「使わない部屋の電気は消す」(93.5%)、ガス1位「使わないときは給湯器の電源を切っておく」(43.7%)、ガソリン1位「エコドライブを心がける」(57.8%)と、こまめな心がけが中心。一方で今後行いたいこととしては、電気1位「照明をLEDにする」(52.1%)、ガソリン1位「燃費のよい車に買い換える」(31.6%)など、省エネ商品の購入意向が高く出ています。特に低燃費車については、次に購入する車を「低燃費車にしたい」という人が9割近く(88.0%)にもなるなど、高額商品に関わらず、高いニーズを見せています。**生活の無駄を見直すと言っても、“低燃費生活”を送るために新たに商品を購入することは、無駄ではない**と考えられていることが分かります。

このように“低燃費生活”への移行が顕著な生活者ですが、勿論商品・サービスなどモノの消費、モノ選びについても大きな意識の変化を見せています。いま現在、商品やサービスを選ぶ際に重視されている(震災前から重視している+震災後重視するようになった)のは、「手頃な価格であること」(89.2%)、「長持ちすること」(88.5%)、「安全性が高いこと」(87.8%)、「必要最小限の機能があること」(83.8%)など。**価格、機能双方が“コンパクト”な、安全で耐久性の高いものが求められています**。なお、特に「震災後重視するようになったこと」としては「購入が社会貢献に繋がる」(36.3%)、「いざという時に役立つ」(33.9%)、「環境への負荷が低い」(31.9%)があげられ、**震災後は特に社会貢献やエコへの志向、つまり“エシカル”志向が高まっています**。

さらに詳しくモノ選びの基準を見てみると、「コンパクト」(95.8%)で、「基本性能」だけがついたものが(76.1%)、「必要なものだけあればいい」(88.1%)という意向が明らかになりました。

**震災後の生活者は、生活の無駄を見直す中で、エネルギー消費を削減する“低燃費”な生活にはげみながら、価格も機能もサイズもコンパクト、かつ安全性と耐久性が高く、エシカルなものを求めているようです。低燃費車をはじめとした省エネ商品の購入意向の高さは、そのような消費志向の表れと言えます。**

本資料に関するお問い合わせ先  
株式会社ノルド社会環境研究所 自主調査係  
東京都中央区京橋1-9-107オレストワー  
Tel:03-5524-7333 / Fax:03-5524-7332

E-mail: [master@nord-ise.com](mailto:master@nord-ise.com) ホームページ: <http://www.nord-ise.com/>

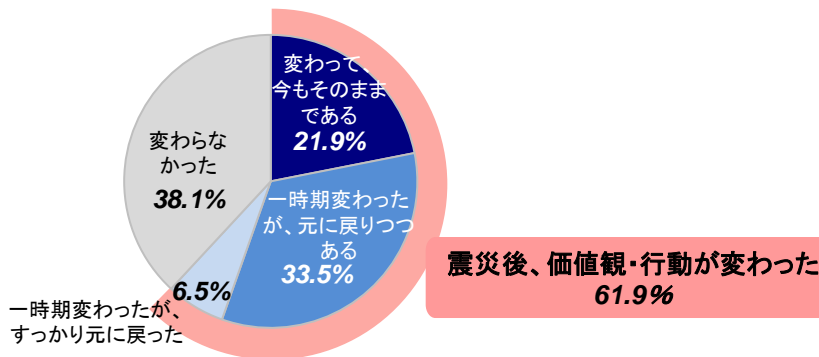
# 震災でライフスタイルに変化があった人が6割以上。特に省エネ志向が高まる。

News Release from NORD 2011.7.21

## ■震災によって、価値観や行動に変化があった人が61.9%。

震災後、生活者にはどのような価値観や行動の変化があったのでしょうか。震災後、価値観や行動が「変わった」という人は合計61.9%。もっとも、中には「一時期変わったが、元に戻りつつある」(33.5%)、「一時期変わったが、すっかり元に戻った」(6.5%)という人もおり、合わせて40.0%となっています。「変わって、今もそのままである」という人は21.9%でした。[グラフ1]

グラフ1) 震災によって、価値観や行動に変化があったか



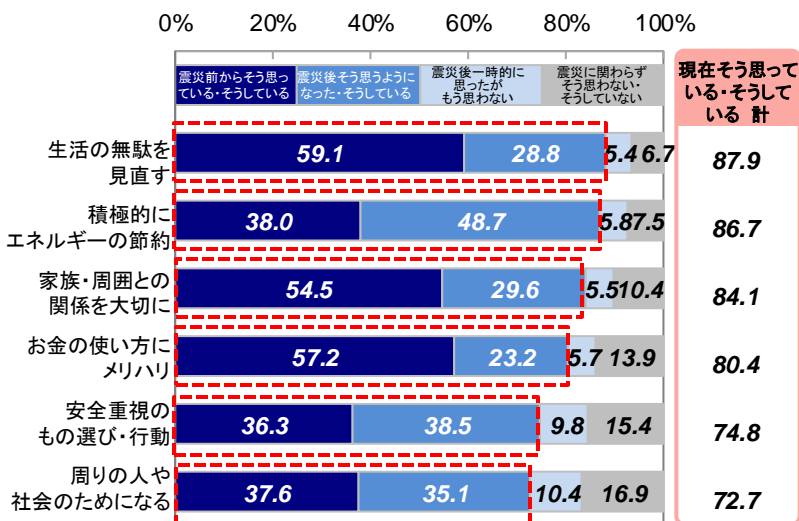
## ■震災後4ヶ月経過した現在のライフスタイルは、生活の無駄の見直し、省エネ、家族・周囲とのキズナ重視。特に省エネ意識は震災後高まった人がほぼ半数(48.7%)。

では、具体的にはどのような変化があったのでしょうか。

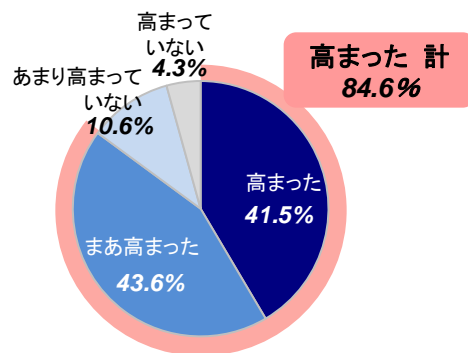
震災後4カ月経過した今、ライフスタイルとして重視されている(「震災前からそう思っている・そうしている」、「震災後そう思うようになった・そうしている」の計)のは、「生活の無駄を見直す」(87.9%)、「エネルギーの節約を積極的にする」(86.7%)、「家族や周囲の人との関係を大切にする」(84.1%)などで、特に「節電などエネルギーの節約を積極的にする」については、「震災後そう思うようになった」という人が約半数(48.7%)となっています。[グラフ2]

実際、震災後家庭のエネルギー消費への関心が「高まった」という人は、84.6%にも達しています。[グラフ3]

グラフ2) 震災4ヶ月後の現在の暮らしについての考え方



グラフ3) 震災4ヶ月後の家庭のエネルギー消費への関心の変化



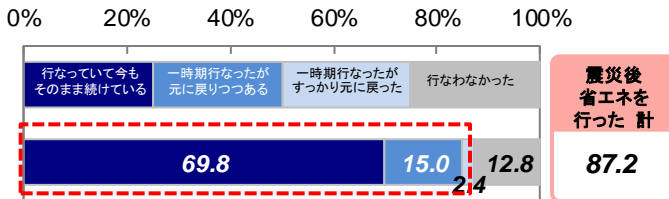
# 省エネ志向により実際のエネルギーへの支出も削減。“低燃費生活”へ。

News Release from NORD 2011.7.21

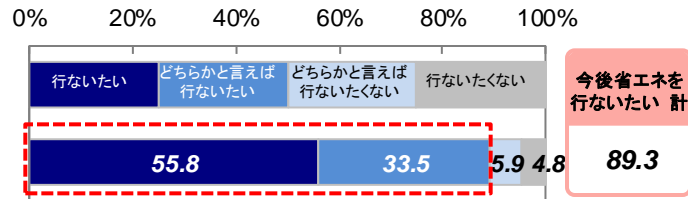
## ■震災後、省エネを行った人は87.2%。今も69.8%が行っている。今後行いたい人は89.3%。

実際に9割近く(87.2%)の人が、震災後、暮らしの中で節電などの省エネを行ったようです(「行っていて、今もそのまま継続している」、「一時期行ったが、戻りつつある」、「一時期行ったが、すっかり元に戻った」の計)。今も7割(69.8%)の人が省エネをそのまま継続し、9割(89.3%)の人が今後も省エネを行いたいと思っています。[グラフ4][グラフ5]

グラフ4) 震災後の省エネの実施状況



グラフ5) 今後の省エネの実施意向

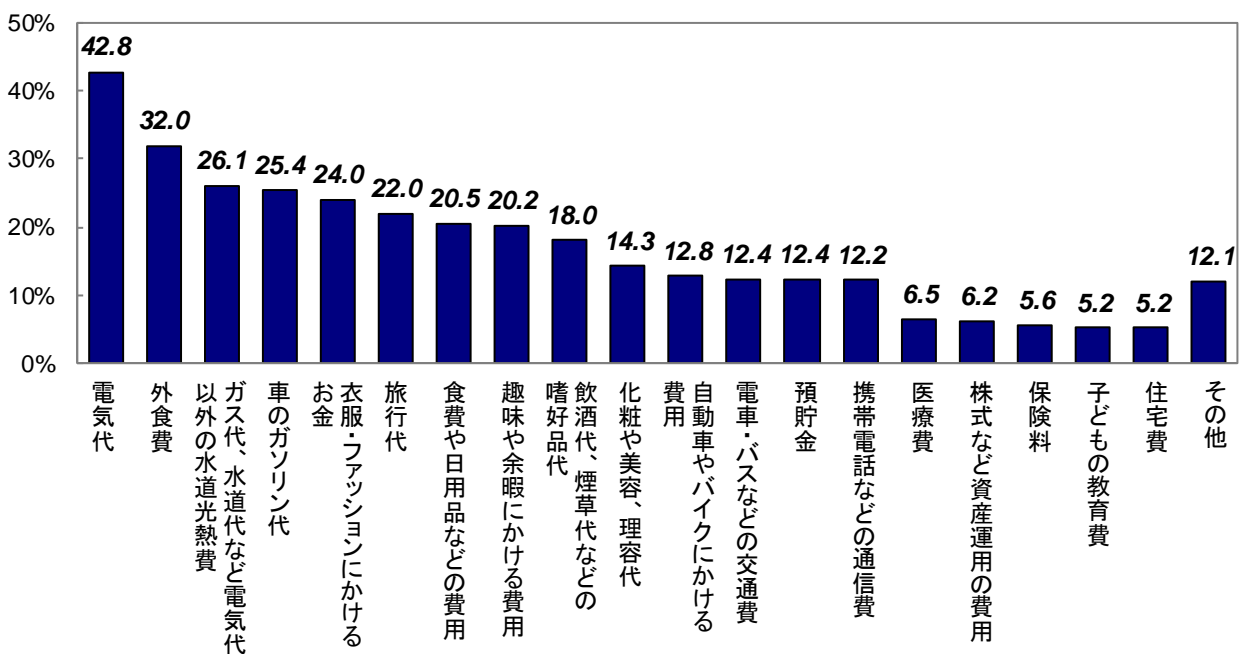


## ■震災後、実際に支出を減らしたのも、電気代など光熱費が中心。モノへの消費以上にエネルギーへの消費を控えている。

震災後実際に支出を減らしたものを聞いても、「電気代」(42.8%)、「外食費」(32.0%)、「ガス代、水道代などの電気代以外の光熱費」(26.1%)、「車のガソリン代」(25.4%)などの光熱費やガソリン代が中心。モノへの消費以上にエネルギーの消費を減らしています。

震災後は“低燃費”な生活志向が顕著、ということが出来るかもしれません。[グラフ6]

グラフ6) 震災前より支出が減ったもの(複数回答)



# 震災後の節電、70.5%の人が今も継続。節電商品にニーズ高まる。

News Release from NORD 2011.7.21

## ■震災後、87.7%の人が節電を行う。今も継続している人は70.5%。今後の節電対策としては「照明をLEDにする」など節電商品購入の意向が高い。

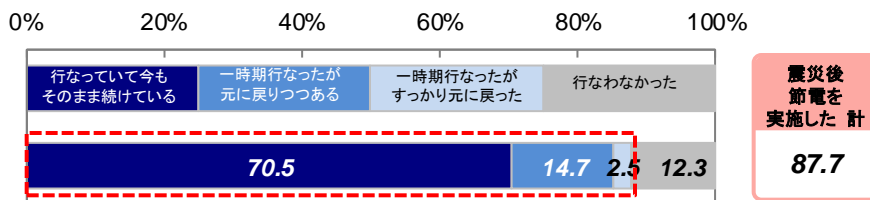
低燃費な生活志向の顕著な震災後の生活者。実際にはどのように省エネをしているのでしょうか。

まず節電について聞いてみると、87.7%の人が震災後の暮らしの中で節電を行い(「行っていて、今もそのまま継続している」、「一時期行ったが、戻りつつある」、「一時期行ったが、すっかり元に戻った」の計)、現在も7割(70.5%)の人がそのまま継続しています。[グラフ7]

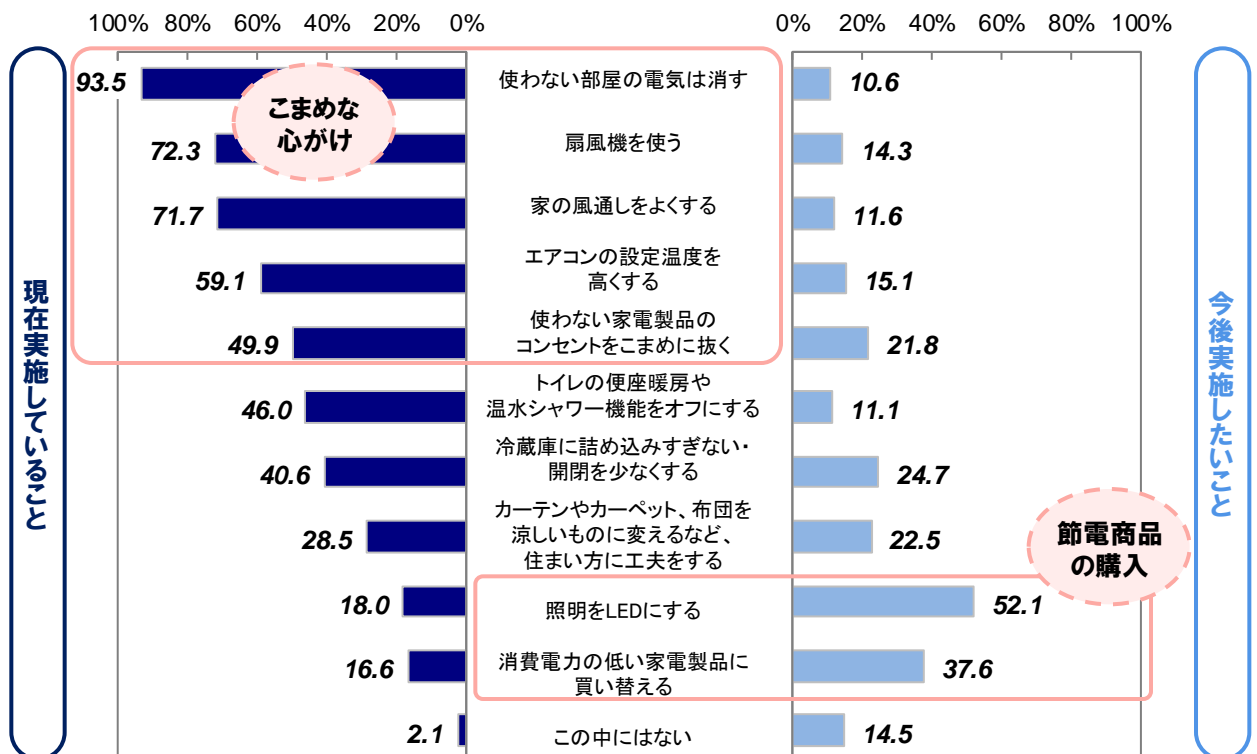
実際に行っている節電対策としては、1位「使わない部屋の電気は消す」(93.5%)、2位「扇風機を使う」(72.3%)、3位「家の風通しをよくする」(71.7%)、4位「エアコンの設定温度を高くする」(59.1%)、5位「使わない家電製品のコンセントをこまめに抜く」(49.9%)などがあげられ、こまめな心がけが上位となっています。

一方、これからやってみたい節電対策としては、1位「照明をLEDにする」(52.1%)、2位「消費電力の低い家電製品に買い替える」(37.6%)と節電商品の購入が上位にあがっています。[グラフ8]

グラフ7) 震災後の家庭での節電状況



グラフ8) 節電対策として行っていること／今後節電対策として行いたいこと(複数回答)



# ガスの節約は36.2%の人が今も継続。

News Release from NORD 2011.7.21

■ガス使用者の半数(46.5%)の人がガスの節約を行う。今も行っている人は36.2%。

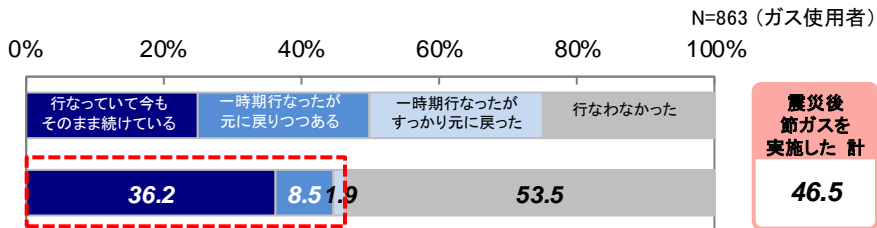
今後のガス節約対策としてはこまめな工夫とガス節約商品の購入があげられる。

次にガスの節約について聞いてみると、ガス使用者のうち5割近く(46.5%)がガスの節約を実施、36.2%がそのまま継続しています。[グラフ9]

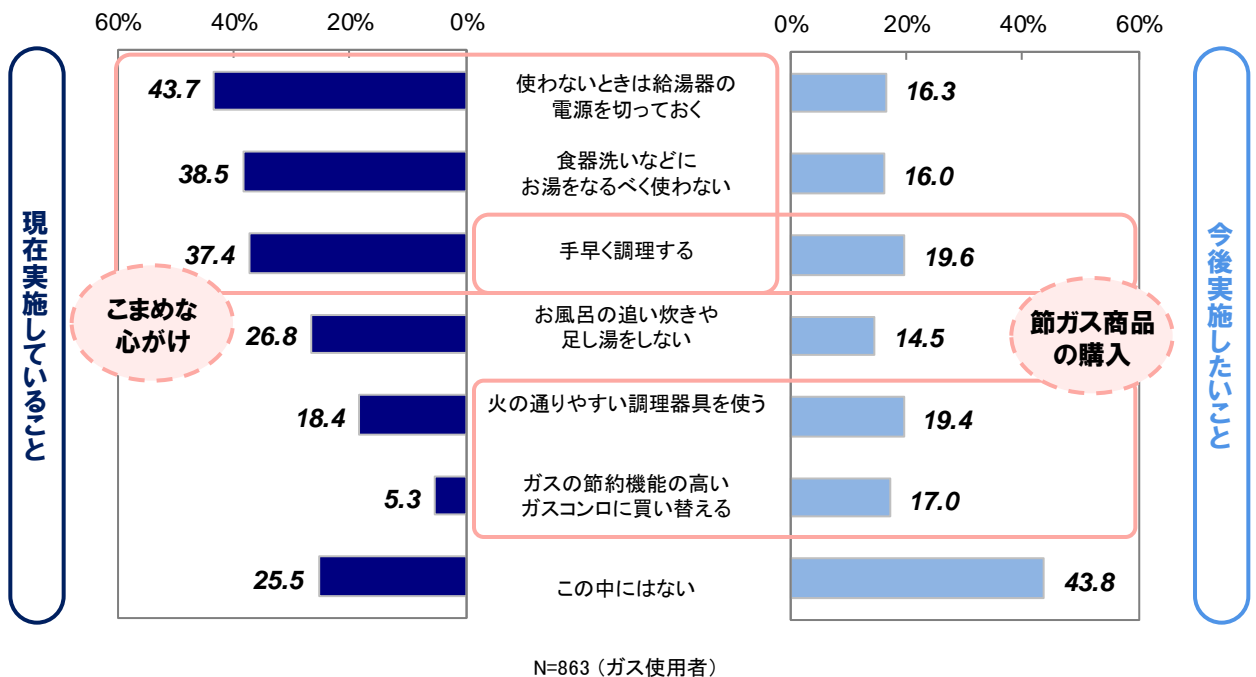
実際に行っているガス節約対策としては、1位「使わないときは給湯器の電源を切っておく」(43.7%)、2位「食器洗いなどにお湯をなるべく使わない」(38.5%)、3位「手早く調理する」(37.4%)などがあげられ、やはりこまめな心がけが上位のようです。

これからやってみたい対策としては、1位「手早く調理する」(19.6%)、2位「火の通りやすい調理器具を使う」(19.4%)、3位「ガスの節約機能の高いガスコンロに買い替える」(17.0%)と、こまめな心がけが上位で、僅差でガス節約商品の購入が続いています。[グラフ10]

グラフ9) 震災後の家庭での節ガス状況



グラフ10) ガスの節約対策として行っていること/今後ガスの節約対策として行いたいこと(複数回答)



# ガソリンの節約は39.0%が今も継続。「低燃費車」へのニーズが極めて高い。

News Release from NORD 2011.7.21

## ■自動車所有者の半数(59.9%)の人が震災後ガソリンの節約を行い、現在は4割(39.0%)の人が継続。今後したいガソリン節約対策は「低燃費車の購入」(31.6%)。

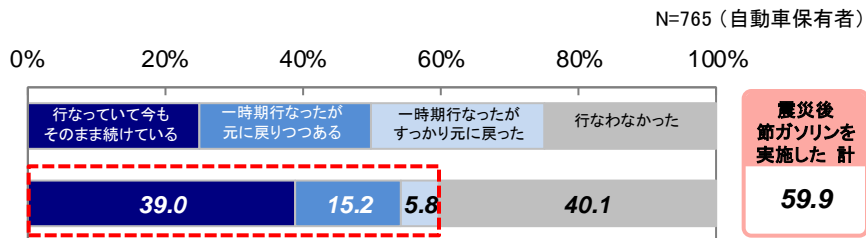
次にガソリンの節約について見てみると、自動車保有者のうち6割(59.9%)がガソリンの節約を実施、4割(39.0%)が今もそのまま継続しているようです。[グラフ11]

実際に行なっているガソリン節約策は、1位「エコドライブを心がける」(57.8%)、2位「車ででかける頻度を減らす」(40.5%)、3位「荷物を積んだままにしない」(34.9%)と、エコドライブも一般に普及しているようです。

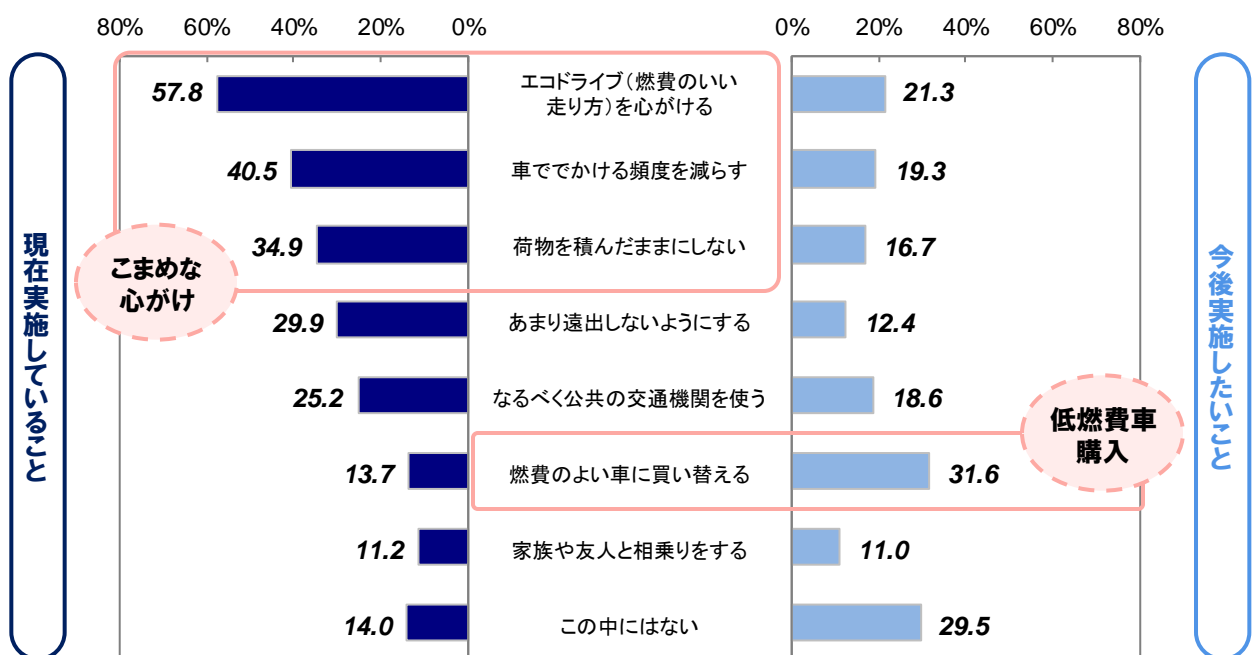
一方、これからやってみたい対策としては、1位「燃費のよい車に買い替える」(31.6%)、2位「エコドライブを心がける」(21.3%)、3位「車ででかける頻度を減らす」(19.3%)などがあげられており、自動車は比較的高額商品であるにも関わらず、ガソリン節約のためには低燃費の自動車に買い替えたい、という人は多いようです。[グラフ12]

震災後は無駄の見直しがなされているようですが、節電でも、ガスの節約でもそうであったように、“低燃費”な生活を送るために新たに商品を購入することは、無駄ではないと考えられていることが分かります。

グラフ11) 震災後の家庭でのガソリンの節約状況



グラフ12) ガソリンの節約対策として行っていること／ガソリンの節約対策として行いたいこと(複数回答)



N=765 (自動車保有者)

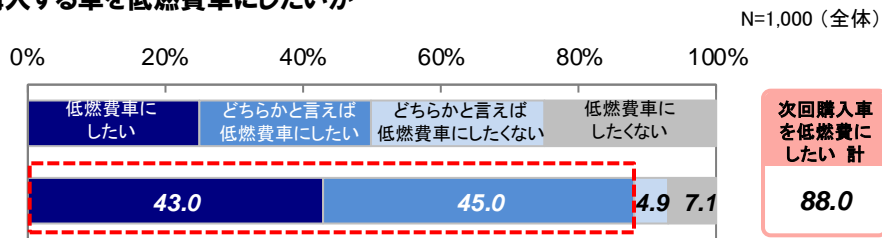
# 次に購入する車を低燃費車にしたい人が9割にも。

News Release from NORD 2011.7.21

## ■次に購入する自動車を「低燃費車にしたい」人、9割(88.0%)。

次に購入する自動車を低燃費車にしたいかを聞いても、「したい」(43.0%)、「どちらかと言えばしたい」(45.0%)で、合わせて88.0%もの人が、低燃費車への購入意向を見せています。[グラフ13]

グラフ13) 次に購入する車を低燃費車にしたいか





# 震災後のモノ選びは、必要最低限でコンパクトに。エシカル志向も。

News Release from NORD 2011.7.21

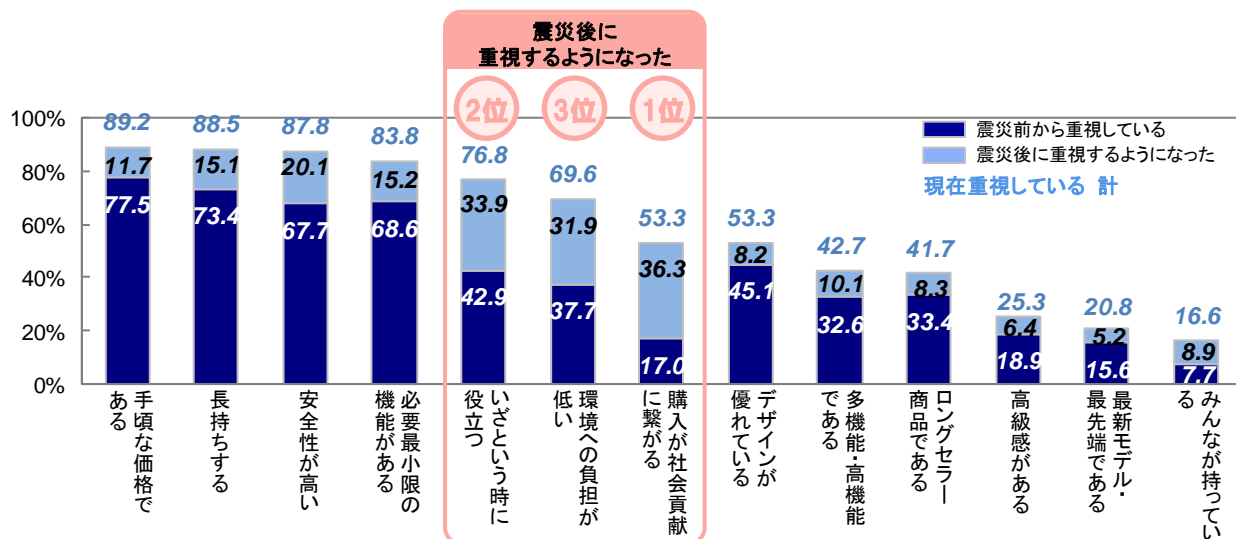
## ■震災4ヶ月後のモノ選びは、「手軽な価格」で「長持ち」、「安全性が高く」、「必要最低限の機能」であることが大事。特に“エシカル”な志向が高まる。

ここまで、震災後の消費のうち主にエネルギーの消費について見てきましたが、では商品・サービスの選び方は、震災後4ヶ月たった現在、どのようなものになっているのでしょうか。

商品やサービスを選ぶ際に「今、重視している(震災前から重視していた+震災後に重視するようになった)」こととしては、「手軽な価格であること」(89.2%)、「長持ちすること」(88.5%)、「安全性が高いこと」(87.8%)、「必要最低限の機能があること」(83.8%)などが僅差であげられました。

うち、「震災後に重視するようになったこと」を見ると、1位は「購入が社会貢献に繋がる」(36.3%)、2位「いざという時に役立つ」(33.9%)、3位「環境への負担が低い」(31.9%)という順になっており、震災後特に高まったのは、社会貢献やエコへの志向、つまり“エシカル”志向と言えます。[グラフ14]

グラフ14) 震災4ヶ月後の現在商品やサービスを選ぶ際の重視点



## ■「コンパクト」(95.8%)で、「基本性能のみ」ついた(76.1%)、「必要なものだけ」(88.1%)を選びたい。エコは「不可欠」(65.6%)。

震災後の今、ものを選ぶときの考え方についてさらに詳しく聞いてみると、「コンパクトなものか、大きなものか」については「コンパクト」派が(95.8%)、多機能派より「基本性能」派が(76.1%)、たくさんものより「必要なものだけあればいい」(88.1%)という結果になりました。また、エコロジー意識については「エコは必要不可欠」(65.6%)という人が「不可欠でない」(34.4%)という人を大きく上回り、震災後のもの選びにやはりエコロジーは不可欠のようです。[グラフ15]

グラフ15) 現在の商品やサービスを選ぶときの考え方

